
真実を知ってください
LSD
リゼルギン酸ジエチルアミド
アシッド
タブ
ブロッター
マイクロドット
jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たち曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う。」

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。
あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。**jp.DrugFreeWorld.org** にアクセス、または **info@drugfreeworld.org** までEメールでご連絡ください。

LSDとは？

LSDは、違法に売られている、精神状態を変化させる強力な薬です。その正式名称はリゼルギン酸ジエチルアミドです。LSDは、ライ麦やその他の穀物に寄生する麦角菌から作られます。

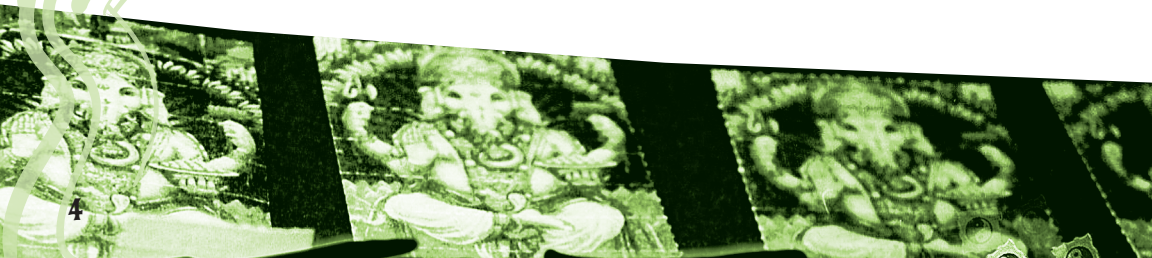
この薬物は、主に米国にある違法な研究所で製造されます。結晶の形で作られ、流通のために液体にされます。LSDには匂いも色もなく、少し苦い味がします。

アシッドとしても知られるLSDは、小さな錠剤（マイクロドット）、カプセル、またはゼラチンの四角い形（ウィンドウ・ペイン）で売られています。時には吸収性の紙に染み込ませ、それがデザインや漫画のキャラクターで飾られた小さな正方形に分けられます（ブロッター）。時には液体として売られます。どんな形であれ、LSDは使用者を同じ場所へと導きます―現実からの深刻な断絶です。

使用者はLSDの効果をトリップと呼び、通常は最大12時間続きます。LSDの体験がネガティブなものになると、それはバッド・トリップ―恐ろしい体験を表す用語―として知られています。

LSDの通称

- 酸
- バッテリー液
- ブロッター
- ブーマー
- カリフォルニア・サンシャイン
- シッド
- ドーズ
- ドット
- ゴールデン・ドラゴン
- ヘブンリー・ブルー
- ヒッピー
- ルーニー・トゥーン
- ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイヤモンド
- メロー・イエロー
- マイクロドット
- ペーン
- パープル・ハート
- スーパーマン
- タブ
- ウィンドウ・ペーン
- イエロー・サンシャイン
- ゼン



「16歳の時、3年以上にわたって乱用した薬物、LSDを紹介されました。私が知らなかったのは、LSDが人類に知られている中で最も強力な幻覚剤だということでした。

その薬は、ブロッターと呼ばれる、私の人差し指ほどの大きさの小さな紙に付いていました。紙を舌に乗せて15分後、体全体が熱くなり、汗をかき始めました。

薬を服用している間に経験した他の反応には、瞳孔の拡大、吐き気、鳥肌が含まれます。LSDで『ハイ』になっている時は、心と体に大きな歪みがあるように感じました。気分や目に映るものが大きく変わって、何だか変なとても怖いトリップで、自分の心と身体がコントロールできなくなったような感じでした。」―エディス



幻覚剤とは？

幻覚剤は、使用者に、存在しないイメージを見せたり、音を聞かせたり、感覚を感じさせたりする薬物です。幻覚剤の中には、使用者に突然で予測不可能な気分の変化を経験させるものもあります。

LSDの危険性とは？

LSDの影響は予測できません。その作用は、摂取量、その人の気分や人格、そして薬物が使用される周囲の環境によっても変わります。感覚が歪んだハイになるか、または偏執症*的なひどい落ち込みを味わうかは、まさに運任せです。

通常、LSDの最初の効果は、薬物を摂取してから30分から90分後に始まります。しばしば、瞳孔が開き、体温が上がったり下がったりし、血圧や心拍数が上昇します。使用者は汗をかいたり、寒気を感じたりすることもあります。

他の影響には、食欲の減退、不眠、口の渇き、震えなどがあります。使用者はまた、視覚の変化を経験することが多く、特定の色の強さや視覚の歪みに執着するようになります。

気分が極端に変化することもあり、現実感を失った「恍惚感」から激しい恐怖に至ることもあります。最大の危険は、LSDの使用者が何が現実で、何が薬物によって引き起こされているのかを見分けられないことです。LSDの使用者の中には、強烈な偽りの悟りを感じる人もいます。彼らは普段の生活から切り離されるだけでなく、さらに薬物を摂取し続けたいという衝動に駆られます。

他の使用者は、ひどく恐ろしい考えに苦しんだり、コントロールを失ったり、正気を失うことへの恐怖や死への恐怖を感じたりします。バッド・トリップは最大12時間続くことがあり、一度始まると、止めることはほとんどできません。

* 偏執症：証拠や正当化なしに、他の人々に対して極端に、そして不合理に疑念を抱いたり、不信感を抱いたり、恐れたりすること。

妄想と幻覚

LSDの中等量でさえ、激しい妄想や視覚的な幻覚を引き起こす可能性があります。使用者は物が歪んで見えたり、形や大きさが変わったり、音や色、触覚の変化を経験するかもしれません。感覚が混ざり合い、色を聞いたり、音を見たりすることもあります。こうした変化は恐ろしいもので、使用者をパニックに陥れることがあります。

意思決定や危険の認識も損なわれることがあります。LSDの使用者は、地面を「もっとよく見る」ために窓から身を乗り出したり、交通量の多い交差点の真ん中に立っていることに気付かずに夕日を眺めたりするかもしれません。

多くのLSD使用者が、かなり後になって、何の前触れもなく「フラッシュバック」、つまりLSDの幻覚症状の再現を経験しています。

バッド・トリップとフラッシュバックは、LSDを用いる危険性のごく一部に過ぎません。LSDは、精神病や重度のうつ病のような、長期にわたる精神的な問題を引き起こすこともあります。残念ながら、中にはLSDによって引き起こされた精神異常から回復することのできない人々もいます。

LSDは体内に蓄積されるため、使用者は薬物に対して耐性を持つようになり、同じ効果を得るために、ますます高い用量を必要とします。これにより、バッド・トリップや精神以上のリスクが高まります。

LSDの有害な影響

身体的影響

- 瞳孔拡大
- 体温の上昇または下降
- 発汗または悪寒または鳥肌
- 食欲減退
- 不眠
- 口の渇き
- 震え

精神的影響

- 妄想
- 視覚または聴覚の幻覚
- 不自然な多幸感や確信
- 時間と自己に対する感覚のゆがみ
- 深さへの知覚が損なわれる
- 時間の感覚の低下
- 思考や気分が深刻な恐怖感に襲われる
- 物体の動き、色、音、触覚、使用者自身の身体に対する歪んだ知覚
- 自制心を失うことへの恐れ
- パニック発作
- LSDを摂取して何年も経った後に何の前触れもなく起こる、LSDトリップのフラッシュバックや再発
- 深刻な抑うつ、または精神異常



「15歳でお酒を覚え、次にエクスタシー、覚せい剤、コカイン、そしてLSDにまで手を出すようになりました。

私は仕事を続けるのが難しくなり、落ち込み、決して薬物への執着を克服することはできないだろうと思いました。私は錠剤を過剰摂取して、2度、自殺を図りました。私は精神科医の管理下に置かれ、彼らからさらに多くの薬、抗うつ薬、精神安定剤を与えられ、事態は悪化するばかりでした。

私は自分の感情のはけ口として、自分自身を傷つけるようになり、体を切ったり、焼いたりし始めました。」
—ジャスティン

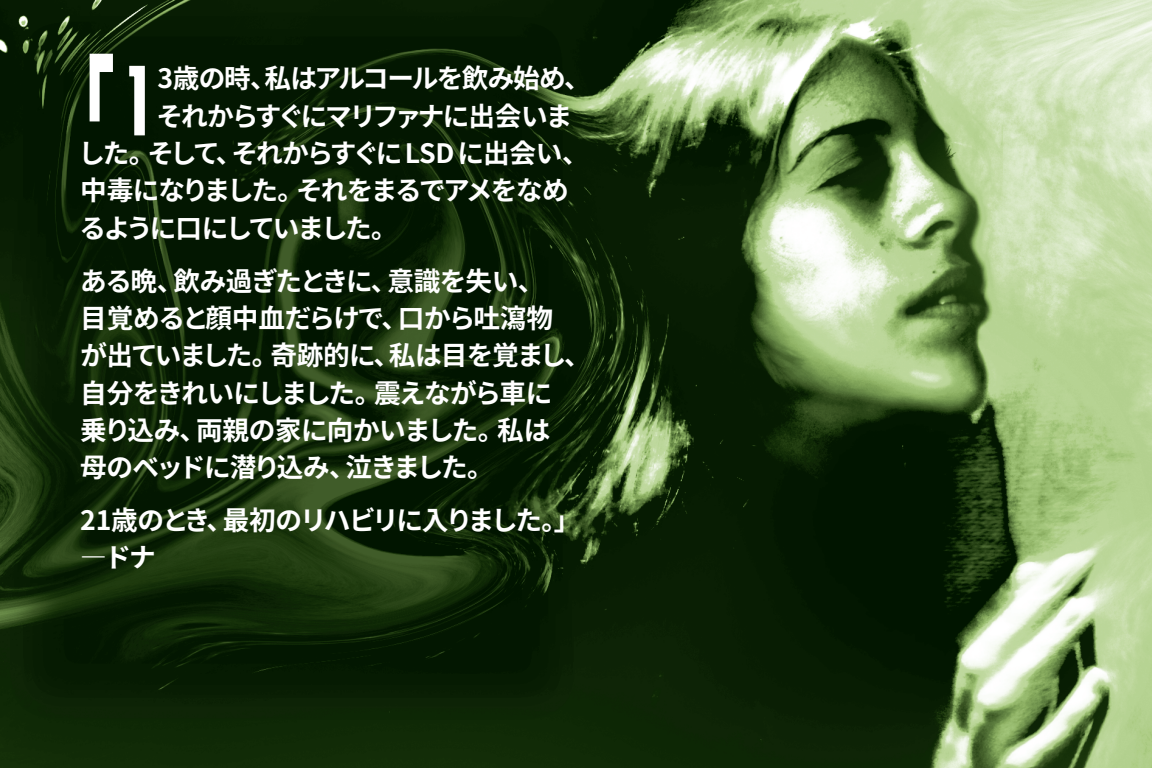
「LSDをやった後、18輪大型トレーラーに正面から突っ込んで死ぬという幻覚を見ました。金属がきしむ音が聞こえ、それから暗く邪悪な静けさが訪れました。この時点で私は恐怖におののいていました―本当に死んだと思ったのです。1年間、私は自分の墓を見つけるのではないかと恐ろしくて、どんな墓地にも行きませんでした。」
―ジェニー

LSDの服用者は、錠剤の形（下）で服用することが多いが、その強烈な変性意識状態は解離と絶望へと変わることがあります。バッド・トリップがしばしば起こり、時には12時間以上も続くことがあります。









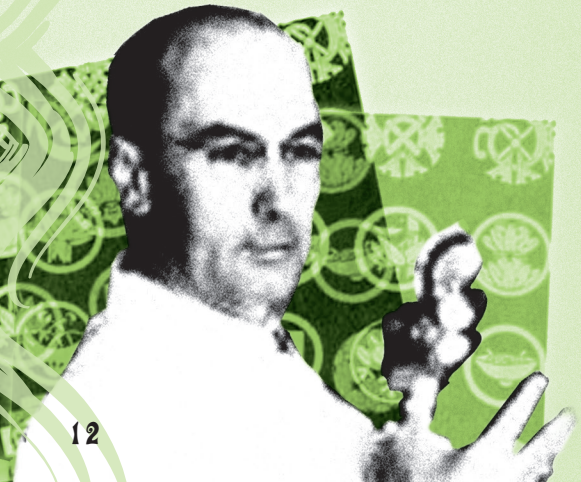
「13歳の時、私はアルコールを飲み始め、それからすぐにマリファナに出会いました。そして、それからすぐにLSDに出会い、中毒になりました。それをまるでアメをなめるように口にしていました。

ある晩、飲み過ぎたときに、意識を失い、目覚めると顔中血だらけで、口から吐瀉物が出ていました。奇跡的に、私は目を覚まし、自分をきれいにしました。震えながら車に乗り込み、両親の家に向かいました。私は母のベッドに潜り込み、泣きました。

21歳のとき、最初のリハビリに入りました。」
―ドナ

LSD：簡略史

1938年、スイスのバーゼルで、サンドズ製薬に勤める化学者のアルバート・ホフマンが、血液の活性剤の研究中に、初めてLSDを合成しました。しかしその幻覚作用は、1943年にホフマンが誤ってLSDを摂取するまで知られていませんでした。後になってわかったことは、わずか25マイクログラム（数粒の塩と同量）を口から取るだけで、鮮明な幻覚を引き起こし得ることが分かりました。



LSDは脳内に存在する化学物質と似ており、その作用が精神病の特定の側面を模倣するため、1940年代から1960年代にかけて精神科医によって実験に使用されました。研究者たちはこの薬物の医学的用途を発見することはできませんでしたが、実験のためにサンドズ製薬が提供した無料サンプルが広く配布され、その薬物が広く使用されることになりました。

LSDは、心理学者のティモシー・リアリーのような人々によって1960年代に広められました。彼は

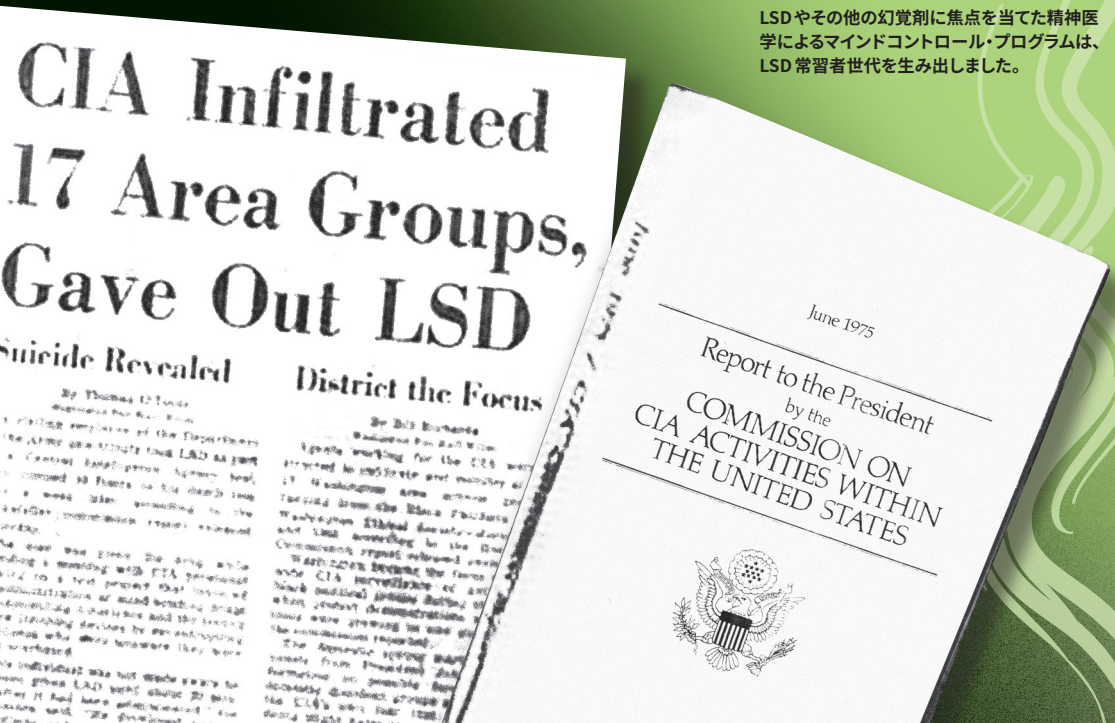
米国の学生たちに「しびれて、目覚めて、抜け出せ」と呼びかけました。これによって薬物乱用という「カウンターカルチャー（反体制文化）」が確立され、米国から英国、そしてヨーロッパ全土へと広まりました。

60年代のカウンターカルチャーは、社会問題から逃れるために薬物を使用しましたが、西側諸国の諜報機関と軍は、それを化学兵器としての可能性があるものと見なしました。1951年、



ハーバード大学の心理学者ティモシー・ラリーは、LSDやその他の向精神薬の使用を奨励し、薬物に関する犯罪で逮捕され、投獄されました。

LSDやその他の幻覚剤に焦点を当てた精神医学によるマインドコントロール・プログラムは、LSD常習者世代を生み出しました。



これらの組織は一連の実験を開始しました。米国の研究者たちは、LSDが「軍隊を含む人々の集団全体を、周囲や状況に無関心にさせ、計画や判断を妨げ、さらには不安、制御不能な混乱、恐怖を生み出すことができる」と指摘しました。

LSDを使って諜報活動の標的となった人々の人格を変えたり、全人口をコントロールしたりする可能性についての実験は、米国が1967年にこの薬物を公式に禁止するまで続きました。

LSDの使用は1980年代に減少しましたが、1990年代に再び増加し、ダンスクラブやオールナイトのレイヴで、10代後半から20代前半の若者たちによって、広く使われるようになりました。

「LSDを使用した後の数日間、私は不安と極度のうつ状態にとらわれていました。LSDを初めて試してから、私は頻繁にLSDを摂取するようになり、かなりの期間、週に4、5回取っていたこともありました。薬を取るたびに、私は精神的に現実からどんどん遠ざかっていきました。最終的には自分自身の皮膚感覚が感じられなくなるまでになりました。」―アンドレア

世界中のLSD

LSDは最も強力な幻覚剤です。幻覚性キノコの200倍もの強さがあることもあります。

1975年以来、アメリカ国立薬物乱用研究所から資金提供を受けた研究者たちは、薬物使用の傾向を特定し、薬物乱用に対する生徒たちの態度や考えを知るために、毎年、全国の高校3年生約15,000人を対象に調査を行っています。高校3年生のうち、11.3パーセントが人生で少なくとも1度はLSDを使用したことがあると報告しました。この数字は1997年に13.6パーセントに跳ね上がりました。2006年以降は、6パーセント以下で推移しています。

薬物乱用およびメンタルヘルスサービス管理局の調査によると、米国では12歳以上の3,000万人が生涯でLSDを使用したことがあると報告されています。調査対象者のうち約250万人が昨年LSDを使用しており、そのうち66万人以上が初めて使用しました。

ヨーロッパでは、ヨーロッパ全土で調査された約5万人のうち、最大20パーセントが昨年LSDを使用したと報告しています。15歳から24歳の人々の中で、生涯LSDを使用したことがある人の割合が1パーセントを超えた国は17ヵ国（オーストリア、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、ラトビア、リトアニア、オランダ、ノルウェー、スロベニア、イギリス）です。

LSDの強力さ

最も強力な幻覚剤
（精神を変化させる薬物）



「ストリップ劇場やカジノに頻繁に通い始め、乱れた生活をするようになっていた。そして売春宿をはしごし、すぐに薬物に手を付けるようになった。

相続した財産を全て失い、そしてクラックの密売所へと移り住んだ。仕事を失い、盗みを働くようになった。

私はハイジャック未遂で逮捕され、刑務所に行った。

私は自分を愛してくれた人たちを傷つけ、失い、勘当された。

挙げ句の果てにホームレスになった。路上で生活し、駅の側の段ボール箱の中で寝て、何とか食い物にありつくために物乞いをしていた。」—フレッド

* メスカリン：主にペヨーテ・サボテンに含まれる強力な幻覚剤

薬物の売人がよく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55パーセントが「周りの雰囲気に流された」と回答しています。彼らには「ダサい」と思われたくない、「カッコよく見られたい」、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

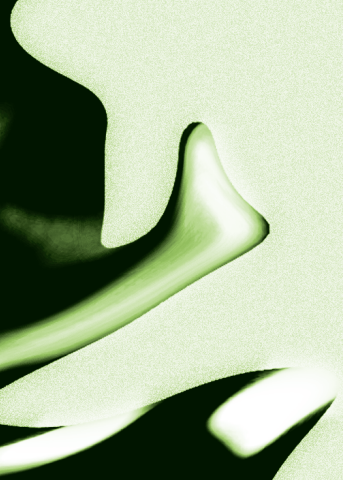
売人たちは、友だちのような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ち掛けてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。例えば「LSDをやると自由な世界が開ける」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。





「トリップして幻想の世界に入ると、友だちがみんなで俺を殺す計画を企んでいるんじゃないかという被害妄想に襲われた。それで、ここから逃げなきゃと思い込んだんだ。

友だちの寝室に駆け込み、窓を大きく開けて、そこから飛び降りた。幸運なことに、友だちは1階に住んでいた。私は森の中を横切って、橋に向かって走った。心臓の鼓動がどんどん速くなるのを感じた。心臓発作を起こして死ぬぞという声が聞こた。

これで終わりじゃない。数年後、走っていたら、突然―バン―トリップ中に走っていたときのフラッシュバックが起こった。私はひどいパニック発作を起こし始め、心臓発作を起こして死ぬだろうと告げる、あの同じ声が聞こえた。

LSDを取ろうと考えている人には、考え直すように言うよ。」
―ブライアン

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人のマインドにも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょう？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかなりません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。



新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっています。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

参照文献：

この小冊子をまとめるのに使われた参照文献：jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真：5ページ：DEA; 12ページ：The Albert Hofmann Foundation; 13ページ：DEA (Timothy Leary 逮捕)

知っておくべき真実

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の薬物のない世界支部とつながるには、jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260

この小冊子をダウンロードするには ここをスキャン

© 2025年 Foundation for a Drug-Free World. 不許複製。Truth About Drugsおよび薬物のない世界のための財団のロゴは Foundation for a Drug-Free Worldが所有しており、使用にあたってはその許可が必要です。#S001562 - Japanese